

子どものジェンダー差

—小学生の遊びを中心に—

雑賀智周

ステレオタイプの子育てや教育は減ったにも拘わらず、子どものジェンダー差は未だ見られる。外遊びの調査では男女共に同性どうしで固まって遊ぶ傾向が見られ、男子は特定の遊びを続けがちであるのに対し、女子は複数の遊びを転々としていた。その中で男子は遊びそのものを重視し、女子は誰と遊ぶかを重視するという違いも見せた。大人への質問調査では、昔と比べて男女で教育を分ける方針が廃れ、同じ教育を与える方針に変わってきていることを指摘する回答が多く寄せられ、自分たちも男女分け隔てなく接するよう心がけているとの回答も多かった。一方で、多様化が進んだものの、それによってあらゆるところで摩擦が生まれ、現代に生きる人々が抱える生きづらさに繋がっているという指摘もあった。現在の日本では少子化が進行しており、子どもの存在は日本の未来を語る上では欠かせない。今後も子どもや子どもを取り巻く環境に注意を向け、変化を見つけ、それを明日に活かしていくことを忘れないようにすることが必要である。